

(16) 矢ノ原一里塚跡

矢ノ原一里塚は、起点である会津城下「大町札の辻」から八里（約三三km）の位置にあたります。戦前まで片方が残っていました。戦時中の食糧増産時に開墾され、その姿を消しています。

(17) 榎原宿

榎原宿の宿駅整備を知る資料としては、本寺圓福寺所蔵の「榎原宿古絵図」があります。

絵図は、旧街道を挟んで東町二二戸、西町二二戸の町割りがない。寛永十七年（一六四〇）二月二四日の墨名があることから、寛永年間には榎原宿も宿駅として機能していたことが伺いしれます。

榎原村は中世の奈良原郷の中心地で、江戸時代には榎原組の郷頭もこの村が勤めています。また、この宿には貞享年間（一六八四）から筏師いかだが置かれ、流木は大川を使って上郷（田島町）から若松に流し、長野の渡しから飯寺の渡し迄金一分一〇〇文となっています。

昭和十八年（一九四三）の大火により古い町並みは焼失したが、敷地割などは旧態を良く留めています。

